

医療人

インタビュー

“できない”とは言わず、要望には誠実に応えたい。
遠方からも患者さんが通い続ける皮膚科クリニック



しげまりこ皮膚科クリニック院長（京都市左京区）

重麻梨子氏

文 中山あゆみ 写真 タカオカ邦彦

保険診療の一般皮膚科と、自由診療の美容皮膚科を標榜するクリニックが京都市左京区にオープンして二年。以来、口コミで患者数は増え続け、京都市内はもとより、遠方から新幹線を利用して通院する患者さんもいるという「しげまりこ皮膚科クリニック」。シミやシワなど加齢に伴う肌の悩みに対応する美容皮膚科は、今後ますます注目される分野だが、自由診療ゆえの難しさもある。「どんな要望にも“できない”とは言わず誠実に対応します。また患者さんが希望されていない治療を勧めるようなことは絶対にしません」という院長の重麻梨子氏の言葉に、成功の力が隠されているようだ。

肌の状態を考えた結果、三十三歳で開業

「しげまりこ皮膚科クリニック」は、JR京都駅から地下鉄で二十分ほどの松ヶ崎駅のほど近く、ファッショナブルな街並みで知られる北山通り沿いにある。しかし、自由診療も行う皮膚科クリニックがあるとは思えないほど自然豊かな環境が広がっていた。

「あえてここを選んだのは、私の実家が近いからです。せっかく医師として働くなら、自分の家族も診てあげられる場所で開業したいと考えていました。クリニックの隣は田んぼですが、北山通りには結婚式場や高級ブティックがあって、東京でいえば青山通りのような場所とかわれて

います。会社経営をしている父親が大病を患い、娘には自分の足で立つて欲しいという願いを込めて、開業をバックアップしてくれました」

開業時、三十三歳と聞いて驚いた。開業のタイミングとしては早い方だ。「開業するなら、キャリアを積んでからでないか、という人もいますが、あまり年齢を重ねると新しいことをするのが怖くなってしまふのでは、と思ったのです。自由に自分のやりたい医療をするなら、怖いもの知らずのうちからスタートを切ってしまった方が良いでしょう。美容皮膚科をやっていく以上、院長である私自身が広告塔とも言えます。ですから肌が老化してしまつてからでは遅かったのです。開業するにあたっては、医療のことはわかっていても医療経営について

は、その道のプロに学ぶのが一番だと思ひ、総合メデイカルさんをお願いしました。総合メデイカルさんを選んだ決め手は担当の方の最初のメールです。問い合わせに対する返信がかなりの長文で驚きました（笑）。自分が担当したら、こんなこともできる、あんなこともできる、と具体的に書いてあったのです。実際、開業するまで何の滞りもなくスムーズにできました」

確かに重氏の肌は透明感があり、シミ一つない。患者さんに「自分もこうになりたい」と思わせるのに十分な説得力がある。

「メタボな内科医に痩せなさいといくら言われても説得力がないでしょう（笑）。それと同じで、自分自身が良い状態の肌を保っていられる間に開業したほうがいいと考えたのです」

患者さんのあらゆるニーズに対応できる環境を整備

クリニックでは、円形脱毛症、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、乾癬、爪白癬、漢方治療などの一般皮膚科はもとより、シミ、シワ、たるみ、ニキビ、ニキビ跡治療、脱毛、瘦身、男性型脱毛症などに対するレーザー・光治療、アンチエイジング注射、内服療法などの美容皮膚科を幅広くカバーしている。このため、乳幼児か

ら高齢者まであらゆる年齢層の患者さんが訪れる。皮膚科疾患の治療を行っている医師が手掛ける美容だからこそその安心感もあるだろう。「美容というと、いろいろと勧められて高額になるのではないかという不安を感じている方も多いと思うので、明朗会計、誠実な対応を心掛けています。患者さんが望んでいないことを勧めることは絶対にしません。逆に患者さんのニーズには100%応えたい。“注射も薬も嫌だけど、シワをとりたい”“塗るだけでシミをうすくしたい”など、患者さんの要望はさまざまですが、予算に応じながら誠実に対応します。皮膚科の治療は継続が必要なが多いので、自由診療でも無理なく続けていただくような価格設定になっていきます」

開院にあたって、最新のレーザー機器を五台導入した。シミ一つとっても、原因によってさまざまなタイプがあり、適切なレーザーを使わないと、かえって悪化してしまう可能性がある。

「勤務医時代は、病院全体での予算配分がありますので、必要な機器を思うように導入できませんでしたが、クリニックでは治療に必要なものはすべて揃えましたので、美容皮膚科で行うレーザー治療なら、どんなことでも対応できるようにしました。結果として近隣の総合病院の皮膚科

から患者さんを紹介していただくこともあります」

二十四時間オンライン予約で待ち時間ゼロを実現

重氏が開業して取り組みたかったことのひとつが、完全予約制で患者さんを待たせないシステムを実現することだった。

「お待たせして多くの患者さんを診られれば、収益は上がります。ですが朝九時に来たのに診察が十一時というような状況だと、診察室に入ってきた段階で、すでに患者さんは気分を損ねているんですね。こうなると、まだ何もしていないのにマイナスからのスタートになってしまいません。これでは納得のいく医療はできません」

予約制をとっている医療機関は多いが、実際のところ予約時間に行ってもすぐに診てもらえないケースもある。しかし、同クリニックでは待ち時間ゼロを実現するため、かなり余裕を持った予約枠を設定している。「待合室で患者さん同士が顔を合わせることもほとんどありません。二十四時間オンライン予約で、初診は三十分、再診は十五分の枠をとっています。二〜三時間分の治療を予約される方も柔軟に時間をとって対応します。仕事で忙しい方も多いので、確実に予定通りに診察が

終わることのメリットは大きいと思います」

無駄な時間をとられない、このシステムは通院の時間を確保できないために治療を諦めてしまっている患者さんの掘り起こしにもつながっている。例えば、遠方から京都まで新幹線で来たとしても、帰りの新幹線の時間までに確実に治療が終われば、スケジュールも立てやすいわけだ。

“ミイラ好き”から人に喜ばれる皮膚科医へ

医師を志すきっかけを尋ねると「私、子どもの頃からミイラが大好きだったんです」と意外な答えが返ってきた。

「イギリスに留学していたときは、大英博物館のミイラの展示を毎日のように観に行きました。死んだ後でも、まるで生きているかのように美しく保存する方法があるということに、とても興味があったのです。エジプト考古学者の吉村作治先生に師事してミイラの研究をしたいと本気で思っていた時期もありました(笑)。でも、生きている間にきれいにするならば、よりに人に喜ばれるのではと考え、そのための近道が医学だと思ったのです」

近畿大学医学部に進学し、卒業後は大病院で研修。その後、滋賀県湖南市の生田病院皮膚科に八年間勤務して皮膚科医長を務めるなど、幅



■ 重 麻梨子 (しげ・まりこ)
近畿大学医学部卒業。近畿大学医学部附属病院皮膚科へ入局し関連病院に勤務。生田病院皮膚科入職。東京女子医科大学附属青山女性医療研究所研究医としても研鑽を積み、2011年10月1日に「しげまりこ皮膚科クリニック」を開院。

広い皮膚科の臨床経験を積んできた。「二〇〇床規模の総合病院で、皮膚科は一般皮膚科が八割、美容皮膚科が二割くらいの比率で診察していました。地域の基幹病院なので、火傷の急患への植皮手術もやりましたし、アトピー、じんましん、感染症、円形脱毛：ありとあらゆる皮膚疾患を診ました。往診で、寝たきりのお年寄りの褥創の処置もしました。まさに「野戦病院」のようなところでしたから、いろいろな経験ができて、とても良かったと思います」

生田病院で治療を受けた患者さんや病院のスタッフなどからの口コミで、開院後もスムーズに患者さんが集まってきた。一般皮膚科での治療実績が信頼となり、美容皮膚科への安心感につながっている。



「しげまりこ皮膚科クリニック」の想いが書かれたプレート。

子育ては夫婦で、将来は後進の指導ができる立場を目指したい

九歳と五歳の娘の子育て真っ最中でもある。仕事と育児で最も大変な時期に開業を考える余裕はいったいどこにあったのだろう。

「主人がとても協力的なんです。掃除、洗濯、子どもの保育所の送迎まで、何でもやってくれています。私がやるより、きっちりしています。私も子どもを育てながら開業できたのは、主人や周囲のみなさんの協力があっておかげと感謝しています」

ご主人は元々会社を経営していたが、開院にあたり、事務長として妻をサポートすることになった。取材中も一歩下がった位置で見守りながら、適宜、説明を補足する姿にチームワークの良さが伝わってくる。

「妹同士が薬剤師で知り合いだったんです。お互いの兄、姉を紹介しようということになって。主人は沖繩出身ですが、義父の仕事の関係で小さい頃から外国の方の生活を身近に感じていたせいか、夫婦が自然に協力しあう感覚が身につけているみたいです」

結婚よりもキャリア形成を優先してしまいがちな女性医師だが、私生活の土台を築いてからの方が、落ち着いて仕事に取り組めるケースもあるのかもしれない。また、休みの日

には家族4人で全国各地を旅行しているという。

「北海道から沖縄まで、これまでもずいぶん行きました。私自身が留学中に日本のことをあまり知らないことに啞然としたので、国際感覚を育てる前に、まず日本のことを知らなければと思ったのです。四十七都道府県を意識して回っていかうと考えています。国内をすべて回ったら、今度は世界を回るのが夢です」

自分のやりたい医療を実現し、私にも充実した毎日。今後、取り組んでいきたいことを尋ねてみた。「まだまだ経験を積まなければならぬ段階ですが、将来的には後進の指導ができたらと思っています。私自身、美容皮膚科での治療は、東京女子医科大学附属青山女性医療研究所の研究医として学んだのですが、今でもレーザー治療の研修をするには、東京まで行かなければならないのが現状です。わざわざ東京へ行くことなく学べるよう、いずれはこのクリニックで研修できるようにしていきたいと思っています」

美容皮膚科の市場は三〇〇億円以上とも推計され、今後ますます発展が期待できる分野である。こうした患者さん本位で安心できる美容皮膚科のクリニックが、ここから全国に広がっていく日もそう遠くはないかもしれない。



1台でシミ、シワ、たるみ、ニキビのすべてに対応できる複合レーザー機種。

治療後はパウダールームでゆったりとお茶を飲みながらメイク直しもできる。個々の患者さんに適した化粧品を重氏自らアドバイスすることもあったという。



高級感の漂う受付。



松ヶ崎駅から徒歩1分というアクセス良好な場所に「しげまりこ皮膚科クリニック」はある。



■しげまりこ皮膚科クリニック
〒606-0915
京都府京都市左京区松ヶ崎六ノ坪町4-5
ランプラス松ヶ崎1階
診療科目：皮膚科、美容皮膚科
診療時間：9:00～12:00(月、火、木、金、土)
13:00～17:00(月、火、木、金)
※ 午前・午後とも完全予約制
休日：水曜、土曜午後、日曜、祝日
<http://marikoclinic.com/>